



<ラムサール通信>

2018年6月12日発行 第189号

●会長に岩崎慎平さん、副会長3人も交代し、若返った役員体制に●

第28回ラムサールセンター総会報告

5月12日(土)午後3時から、東京・青山の地球環境パートナーシッププラザで、ラムサールセンター(RCJ)の第28回総会が、会員24人ほかの出席で開催されました。

昨年度総会から継続案件となっていた会長人事は、満場一致で岩崎慎平さん(福岡女子大准教授)を選出し、副会長に新しく小山文大さん(大森海苔のふるさと館)、大原みさとさん(インテムコンサルティング)、田辺篤志さん(熊本大大学院)の3人が選ばれ、また前会長の安藤元一さんは副会長にとどまり、新しい役員体制ができました。岩間徹さん、亀山保さん、武者孝幸さんの高齢の副会長3人は離任しました。以下、報告します。

開会冒頭には、安藤元一会長と来賓の日本国際湿地保全連合の名執芳博会長の挨拶がありました。

* * *

[I] 2017年度の活動報告(2017年4月~2018年3月)

ラムサールセンター(RCJ)の2017年度活動は、第9期中期計画の3年目で、2018年10月のラムサール条約第13回締約国会議(COP13、ドバイ)への貢献をめざす第8回「アジア湿地シンポジウム(AWS2017佐賀)」を最大目標に取り組み、無事終了しました。昨年総会で決まった日本国際湿地保全連合(WIJ)への会員参加、RCJ事務局の移転も無事終了しました。2017年度活動は昨年総会で決定した「活動計画」にしたがって、次のように実施されました。

1 日本国際湿地保全連合(WIJ)の団体会員に加入

2017年10月、「特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合(WIJ)」の団体会員として承認されました。今後、ますます協力関係を強化していく方針です。

2 事務局の移転

大田区南久が原の中村玲子事務局長宅から、会員の大村弥加さんが経営する旅行代理店「メープル・ツアーズ」(目黒区目黒2-3-1)事務所に移転しました。ご厚意でスペースを共用させてもらい事務局機能を整備しました。JR目黒駅徒歩12分、目黒川沿いの地の利です。

3 「アジア湿地シンポジウムAWS2017」を開催し「佐賀ステートメント」を採択

2016年6月に準備を開始して同年8月に実行委員会、同年10月に佐賀現地実行委員会を立ち上げ、2017年2月の国際運営委員会(韓国・順天)開催でシンポジウムの概要を固め、同年4月から発表を募集、同年7月に発表と基調講演を選定、プログラムを確定。その一方で、実行委員を中心に後援・協力団体と資金集めに奔走。11月7~11日、AWSを開催、「佐賀ステートメント」を採択しました。

AWS2017の報告書「プロシーディングス」作成には、RCJと中村玲子事務所が協力しました

4 アジアにおけるRCJの主体事業

①「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」(BOB活動/KNCF助成)の第2年度活動を292.5万円の助成金で実施。AWS2017への参加促進、2018年2月にはオディッサ州でのコミュニティ交流国際研修などをRRC-EAや九州大学などの協力で実施。ラムサール条約プレCOP13アジア地域会合(2018年3月・スリランカ)ではBOB活動の広報とスリランカの湿地調査も実施。

②「バングラデシュ国モヘシュカリ島における学校・モスク施設主導による生態系アプローチに沿った住民参加型植林」(国土緑化推進機構緑の募金支援)を、C/Pのバングラデシュポーシュと、単年度(7月~翌6月)ごとの

継続事業3年目として実施。日本マレーシア協会の新井卓治さんに専門家として協力してもらいました。

③「ミャンマー国ウトゥ村での住民参加の持続可能なマングローブ生活林づくり」（トヨタ環境活動助成プログラム）は2017年1月からスタートした2年計画事業で、C/Pはミャンマー森林協会。副会長の亀山さんと会員の前川さん、サンサニーさんが12月にタイでカニの育成研修を実施。インドからダスさんも参加しました。

5 アジアのNGO事業の支援活動

- ①バングラデシュポーシュの地球環境基金助成事業「バングラデシュ国テクナフ半島の住民によるベンガル湾岸生物多様性保全のための『責任ある漁業』の推進」の代理人（2年目）として支援。
- ②「インド国バフダ入江湿地における強靱なコミュニティ構築のための気候変動適応に向けた住民参加型環境教育と生計改善の実施」に副会長の岩崎さんが代理人として支援。2年目事業。

6 国内における主な事業

- ・環境省エコライフフェア2016「湿地の恵み展」

2017年6月3～4日「湿地の恵み展」を、例年どおり、RCJ、WIJ、YRJ、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議と協力して実施。

- ・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

今年度から会長市が大崎市となり、10月に古川で開催された主管者会議と学習交流会にオブザーバー参加。

- ・KODOMO ラムサールin鶴居村

2017年8月4～6日、北海道鶴居村の開村80周年および釧路湿原国立公園指定30周年記念事業として開催され、WIJ、ユースラムサールとともに実行委員会に加わって協力。湿原環境を酪農家や森林組合などが新しいアプローチで地域活性化に活用していこうという意欲的な企画で、大きな成果を上げました。

- ・KODOMO 湿地交流in荒尾干潟

2017年11月3～5日、熊本県荒尾市で登録5周年記念、AWS2017イベントとしてユースラムサール主催、荒尾市、WIJ、RCJなどが共催。ユースラムサールの初の本格事業でした。

- ・国内湿地の現地調査

- ・瓢湖：阿賀野市担当者の案内で現状視察。登録10周年イベントを打診。2018年3月、武者。
- ・広谷湿原：北九州市と苅田町の平尾台カルスト台地。浦田健作さん（日本洞窟学会）と両市町担当者の案内で登録を探る調査を9月、10月、12月の3回、名執、高田、武者、島谷、中村。
- ・出水平野、球磨川下流域：AWS終了後、アジア会員と現地視察。2017年11月、名執ほか。

- ・日本湿地学会

東京農工大。2017年9月、安藤、中村、小山、名執、林、亀山、新井、鈴木ほか。

7 RCJの基本活動

- ・<ワイズユース>ワークショップ：2017年12月26日、「AWS報告会」を忘年会と兼ねて開催。若い人たちが多数参加し34人の盛会。安藤会長から若手に期待する熱い「檄」が印象的でした。
- ・ラムサール通信は184号～188号を5回、HPではAWSの広報を中心に配信。

8 組織体制

- ・会員数は115人。その詳細については別紙参照。
- ・安藤会長からの「交代」人事について、昨年総会で「来年度以降、岩崎副会長を軸に調整する」との確認のもとに、岩崎副会長を中心とした若手会員による意見交換会、役員間の個別話し合いが何度かもたれました。その結果、若い世代の参加による新体制をめざす方向で合意ができつつあり、後述のように決定しました。

[II] 2017年度（2017年4月～2018年3月）決算報告 ＊別紙参照

会計監査は、別紙のとおり監事の藤岡さんから「適正報告」されましたが、次のようなコメントがありました。「RCJ会計は、長く債務超過がつづいている。改善のために、次の5点について留意してほしい。①会費納入率の100パーセントの達成。任意団体NGOでは会費こそ収入の基本。②会員の増加。前項とセット。③会員拠出金は資本（資産）と考え、増資の検討も。④短期借入金の減額。債務は早期に返済する。⑤本やTシャツ、各種ツールなどの資産計上品の売却、現金化の努力も」

[III] 2018年度（2018年4月～2019年3月）活動計画

ラムサールセンター（RCJ）の活動は、3年ごとに開催される「ラムサール条約締約国会議 COP」の決議と議

論の動向を受けて、アジアと国内の情勢を検討し、次の COP に向けた「中期計画／目標」を考え、それにもとづいて年次計画、方針を立案してきました。したがって 2018 年度の活動は、第 9 期中期計画の 4 年目として、前年までの方針を引き継ぎ、2018 年 10 月に UAE・ドバイで開催される「COP13」に、「AWS2017 佐賀」の成果を提供することを最大の目標とします。このほかの海外で実施中の RCJ の主体事業や支援事業、国内での各種事業や基本活動などは、これまでどおり継続します。

なお再確認すると、「第 9 期中期計画」の背景となっているのは、「COP12 (2015、ウルグアイ)」で採択された「ラムサール条約戦略計画 2016～2024」で、ここには 4 つの戦略目標—①湿地の劣化、減少への取り組み強化、②登録湿地ネットワークの効果的な保全と管理、③湿地の賢明な利用の促進、④条約実施の強化が掲げられています。さらに決議 XII.9 「CEPA プログラム 2016～2024」でとくにキャパシティビルディングの重要性が強調されました。そして全体として「ラムサール条約の主流化」を謳っています。RCJ ではこれを、条約の「質的強化」とも理解しています。

そこで RCJ の次の「第 10 期中期計画」は、10 月の「COP13」の決議などを見て改めて議論しますが、その際、この総会で発足した岩崎新会長を中心とした新体制によって、「新しい器の新しい方針」を協議して、必要によっては「臨時総会」を開催して具体的な事業、活動方針を決定します。

1 「ラムサール条約第 13 回締約国会議 (COP13)」への貢献

2018 年 10 月、UAE のドバイで開催される COP13 に参加し、AWS2017 佐賀の成果を提供し、その際、共催団体の環境省、WIJ、日本湿地学会と協力して活動します。具体的な活動としては、「プロシーディングス (佐賀ステートメント)」の会議への提供、RCJ 代表の派遣、サイドイベントの開催、ブース展示、広報と交流、会員の会議参加と研修を想定。

2 アジアにおける RCJ の主体事業

・「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」(BOB 活動/KNCF 助成事業)

第 3 年度助成 455 万円。ひきつづきインド、バングラデシュ、ミャンマーの NGO や地域のキャパシティビルディングに重点を置き、昨年度同様のコミュニティ交流国際研修をバングラデシュで計画。また、日本に呼んでの研修、まとめのワークショップも検討します。

・「バングラデシュ国モヘシュカリ島における学校・モスク施設主導による生態系アプローチに沿った住民参加型植林」(国土緑化推進機構緑の募金支援)

C/P がバングラデシュポーシュの当事業は 6 月に終了で、現地へまとめの評価に専門家を派遣する予定です。

・「ミャンマー国ウトゥ村での住民参加の持続可能なマングローブ生活林づくり」(トヨタ環境活動助成プログラム) 2 年計画事業が 12 月で終了予定。9 月にウトゥ村を再訪予定です。

なお、トヨタ環境活動助成プログラムには、これまでの実績にもとづく新たな事業提案を検討中です。

3 アジアにおける NGO 事業の支援活動

・バングラデシュポーシュの「バングラデシュ国テクナフ半島の住民によるベンガル湾の生物多様性保全のための「責任ある漁業」の推進」(地球環境基金助成 3 年目) の代理人として協力。

・パリシュリの「インド国バフダ入江湿地における強靱なコミュニティ構築のための気候変動適応に向けた住民参加型環境教育と生計改善の実施」には岩崎さんが代理人として継続します。

4 国内における主な活動

新規の主体的な事業は未定として、例年どおり以下のような活動に取り組みます。

・環境省エコライフフェア 2018 「湿地の恵み展」、6 月 2～3 日に実施済みです。

・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

・国内湿地 (新規登録湿地) の現地調査

・KODOMO ラムサール湿地交流

新規登録予定の南三陸沿岸湿地、ほか荒尾干潟、瓢湖などで計画中。

・日本湿地学会 (愛知県豊田市)

・ILEC 「世界湖沼会議」(2018 年 10 月、茨城県)

・その他

5 RCJ の基本活動

- ・<ワイズユース>ワークショップ
- ・ラムサール通信、HPによるCEPA活動

6 組織体制

すでに述べたとおり、新役員、事務局体制は以下のようになりました。なお、人事のなかで事務局長の交代についても議論され、過渡的な扱いとして、会員の大村弥加さんを「副事務局長」として補佐してもらうことになりました。会則に役職として明記されていないので、次の総会で正式に承認することにします。

会 長 岩崎慎平（福岡女子大）

副会長 安藤元一（元ヤマザキ学園大学）、磯崎博司（元上智大学）、藤倉良（法政大学）、林聡彦（コンサルタント）、小山文大（大森海苔のふるさと館）、大原みさと（インテムコンサルティング）、田辺篤志（熊本大大学院）

監 事 藤岡比左志（WAVE 出版）、

事務局長 中村玲子（ライター）、副事務局長 大村弥加（メープル・ツアーズ）

総会出席者： 北本、武者、名執、安藤、土居、大原、亀山、中村大輔、中村玲子、田辺、磯崎、岩崎、尾崎、林、佐々木、鈴木、藤岡、大村、新井、新田、小松、佐藤湧馬、前川、岡本

●<ワイズユース>ワークショップ：会員トーク・シリーズ その① 報告●

総会に先駆けて2018年5月12日(土) 午後1時から、同会場で、第101回<ワイズユース>ワークショップを開催しました。RCJは、日本をはじめアジア12か国の、20代～60代の自然科学者、社会学者、ジャーナリスト、編集者、NGOリーダー、行政官、学生などの115人の会員で構成され、それぞれの分野で多彩に活躍しています。そこでこの「会員トーク・シリーズ」を企画し、その第1回でした。

今年の総会で離任するまで12年間、会長としてRCJ活動を牽引してきた安藤元一さんの「人間万事塞翁が馬—安藤の『風に吹かれて』人生」、事務局長の中村玲子さんの「RCJ活動の位置と意義—NGOだからできること」、KODOMOラムサールの名ファシリテーターの中村大輔さんの「KODOMOラムサール交流会のこれまでとこれから」の3つのお話のあと、質疑応答がおこなわれました。19人が参加しました。なおこのときのお話の内容は小レポートとして共有するべく準備を進めています。

●RCJの財政を強化するため、会員拠出金を募ります●

総会報告でもお伝えしたとおり、監事から、RCJの財政を改善し、強固にするために、①短期借入金の早期返済、②会員拠出金（資本金）の増資の検討、③本やTシャツなどの在庫品の売却、現金化の努力、という提言がありました。早速具体化させたいと思います。詳細は改めてご連絡しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、6月2～3日に代々木公園で開催された「環境省エコライフフェア2018」にWIJ、YRJ、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議と出展した「湿地の恵み展—都市と湿地」で、RCJのKODOMOラムサールTシャツ、トートバッグなどとの引き換えの「寄付」を募り、合計17,537円の資産計上品の現金化に成功しました。

・・・・・・・・・・会員近況・・・・・・・・・・

- ・東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事務局（韓国・インチョン）での4年間の任期を終えた市川智子さんが帰国しました。5月から、環境省自然環境局野生生物課の湿地保全専門官として、ラムサール条約、二国間渡り鳥等保護条約・協定、フライウェイ・パートナーシップなどを担当します。
- ・AWS2017事務局スタッフとして獅子奮迅の活躍をした尾崎友紀さんが、スコットランドのアバディーン大学修士課程に入学するため、6月、渡英しました。